

民報 ゆうばり

小さいからこそ輝く自治体へ

住民の力が「内から輝く自治体」をつくる…東川で自治体フォーラム



コスト削減ではなく、『文化力』による立て直しを！ 地域の文化力で『小さいからこそ輝く自治体』へ！

5月26・27日の両日、東川町において「全国小さくても輝く自治体フォーラム」が開催され、沖繩から北海道まで町長・議員や自治体職員など全国から、350人が参加しました。

◆◆◆
記念講演は、資生堂名誉会長の福原義春氏の「内から輝く自治体をつくる」です。

◆◆◆
個性・多様性が喪失されているからこそ、地域を立て直す力は、「文化力」しかない。

文化力＝地域の人間力。個性や多様性を活かし、「全員参加」で特徴をつくること。そこが小規模自治体のメリット。

開催地東川町の松岡町長は、「東川は、鉄道、国道、上水道の三つの道がないのが自慢。しかし、おいしい水、うまい空気、豊かな大地がある。写真甲子園、君の椅子と写真プレゼント、国際交流、景観条例と買い物支援やデマンドバス、大雪旭岳源水、地下水サミットなどが個性創造型の政策です」

黒松内町はヨーロッパでは生物多様性が評価され、再生に多大な投資をしていることから、「生物多様性地域戦略策定と今後の展望」で、水と緑のネットワーク、へー第3の転換期世原発にNO！自然の中を散策し、飲食もOKのフットパスも盛んに。環境保護政策は結果的に経済にプラスになる（人、モノ、カネが動く）。

最後に、小規模自治体ならでは、住民参加が地域の文化力を高め、住民の地震となることが重要。地元で経済効果・雇用効果をもたらす、自然エネルギーの活用を進めることが重要、災害時の応急活動の連携や合併に反対などの参加者アピールを採択し閉会しました。

日本は今『幸せ』と感ずる国民が、一番少ない国になった。社会の劣化、組織の劣化、リーダーの劣化が顕著。日本は、大資本による質の低下、個性・多様性が喪失されているからこそ、地域を立て直す力は、「文化力」しかない。

地域に暮らす人々から湧き上がる生活の中の文化の活性化が『内から輝く』。地域に暮らす人の満足が地域の魅力となる。内から輝く自治体の魅力が「結果」として「他の地域の人を惹きつける。その政策は、まず、地域の人の心や暮らしを豊かにするも

美瑛町では「フランスでもっとも美しい村活動に範をとり、日本でも最も美しい村」連合を呼び掛け、7町村で発足。NP法人の認証を受ける。栗山町では、「ふるさと教育」として、オオムラサキの飼育などの自然体験プロ

岩手県葛巻町では、「グリーンツーリズム、山ブドウが原料の葛巻ワイン、風力発電、太陽光発電、バイオマス発電で180%以上の電力自給率。」

訓子府町では、財政分析（町民・議員・職員対象）から自立への農業を基盤とするまちづくり。まちづくり推進会議から自治基本条例へ。昭和60年から7年連続図書貸出率日本一。住民の住民による住民のためのまちづくり、住民による地方自治・福祉・教育優先のまちづくり。西興部村「エゾシカ猟区」のとりくみ。福島県飯館村から「おカネの世界」

再生市民会議環境部会で、リサイクル集積所・埋立地見学

5月25日、再生市民会議環境部会（松宮部会長）は真谷地のリサイクル集積所と富野の埋立地を見学しました。

リサイクル資源は、回収された袋を7く8名の所員が開けて、厳密に検査した上で、リサイクル資源は、ない袋があるという

分類分けされてい



中での見学となりました。「人口が減りゴミの量も減ってきたので

まだ15年は埋め立てできません」と担当者説明してくれました。



富野の埋立地も見学

新緑のクルキをフィールドワーク

～新婦人南清水沢班～

5月24日午後から、「いったい、産業廃棄物処理場をどんな所に作ろうとしたのか、現地を見てみよう」と、車でクルキ地区に出かけました。

国道 274 号を右に折れて細い道に入ると、「へえ、こんな所行けるの？初めて通る」「あら、ドジョウでもいそうな川だね。昔、こんな川でザリガニとったりしたよ。いい川だね」「家があるよ。農家やってるの？ハウスたってるよ。この山奥でメロン作ってるんだね。大変だね。」「やっと開墾しただろうに、荒地になってるよ。離農したのかね」この地区を開拓した人たちの労苦を感じとりました。

帰りは清陵の慰霊碑へ。近くに何やら建っているのを見て、「いやあ、あんなもの建っていたこと知らなかった。がっかりだよ」「夕張に住んでいても、知らない所や知らない事があるものだね」「市民運動が実って、山と川の美しいクルキ地区に、産業廃棄物処理場ができなくて本当に良かったね」など、道々感想を述べ合いながら、充実した午後を過ごしました。



高速道路のおかげで、入場者が減ったのではという「物産館」で、おやつタイム。メロン熊がいっぱい！



「国会かけある記」

日本共産党参議院議員

大門 実紀史

「網走紀行」

5月19日、はじめて網走の演説会にうかがいました。「いちど網走に行きたい」と希望を出していたら、急ぎよ実現したものです。

個人的にはもう20回以上、網走をたずねています。最初は14歳の夏で、オホーツク海とつながる野性的な能取湖に魅了されました。現在は湖口が護岸工事で固定され、周辺道路も整備されすぎて少し残念。それでも湖は茫洋（ぼうよう）としており、海の色も美しい。作家の田宮虎彦は能取の岬を日本で最も雄大な岬と称（たた）えました。冬は極寒ですが、夕照の流水を見れば、誰でもまた網走を訪れたくなるはずですよ。

今回、志願したのは、そんな網走で、どういう方々が日本共産党を支えておられるのか、応援してください。どうか、お会いしてみたいと思ったからです。

曇り空の風が冷たい日でしたが、演説会は二か所とも満席。十二区候補の菅原誠さんと私の話を、皆さん熱心に聞いてくださいました。少しの冗談にも大きな反応があり、知性の高さを感じました。また市会議員の松浦敏司さん、飯田敏勝さんとのユーモアあふれる懇談も楽しかった。笑いが一番の「ホッカイロ」だと思いました。

翌朝は澄んだ青空。網走の党を支える方々のご苦労と明るさに敬意を表しつつ、旭川へ。列車のなかで、北海道の歌人、小田観堂（おだ・かんけい）が女満別で詠んだ歌を思い出しました。「蒼空を おのがこころに 生くべかりけり」。政治の冬は続きますが、北の大地はウキウキするほどいい季節です。